

## 【議事録】

■案件名： PARK-PFI「桃山公園」の魅力向上事業

■会議名： 第13回 桃山公園ミーティング

■日時：2025年12月13日(土) 15:30 ~ 17:00

■場所：桃山台市民ホール（2階）

■参加者(敬称略)

(学識経験者)大阪公立大学 緑地環境科学専攻 松尾准教授

(ブランズ桃山台)島田

(桃山台自治団体協議会)小山

(桃山台3丁目自治会 副会長)矢吹

(桃山公園を守る会)村田

(桃山台小学校PTA 副会長)柴田

(吹田市 公園みどり室)小原、白井、川本

(指定管理者)グリーンホスピタルサプライ桃山公園

白石、清水、田中、野田

■記録者：清水(指定管理者)

■資料：第13回桃山公園ミーティングの進め方

### 1. 委員からの意見書に対する回答

【説明：グリーンホスピタルサプライ桃山公園 田中】

- ・遊具設置について
- ・ラクウショウの保全について

### 2. これまでの振り返り

【説明：グリーンホスピタルサプライ桃山公園 田中】

- ・協議会の運用(傍聴席)
- ・植栽管理(樹木管理台帳・竹林・ネザサ)
- ・遊具設置について
- ・園路改善(施設管理)

### 3. 課題・今後について

【説明：グリーンホスピタルサプライ桃山公園 田中】

- ・竹林の管理(植栽管理)について
- ・植栽管理(園内)について
- ・園路改善(水たまり、根上がり)について
- ・その他(苦情・要望)について

【説明：吹田市公園みどり室 川本】

- ・寄附による補植について

### 【ご意見／ご質問】

・竹林の管理(植栽管理)について

A 委員：桃山公園のクスノキは幹周もかなり大きく吹田市内では珍しい巨木であるため、専門家の意見も踏まえて竹林の管理を行ってほしい。

<松尾先生>

緑との付き合い方は長期的になるため、即効性はない。専門家にも入ってもらうことで、竹林の適切な管理方法を確認し、今後の議題として取り上げて方向性が示せたらと思う。

#### ・植栽管理(園内)

A 委員：素人の調査結果が伐採に繋がるとなると責任を感じるので、予算感の問題もあると思うが、専門家の知識も入れて長期的に考えていってほしい。

B 委員：1 度参加した。同様に責任を感じる。専門家も入れたうえで、スピード感を持って実施していきたい。公園近隣で樹木調査をしていることを知っている人はほとんどいない。指定管理者含め周知を行い、今後も協力して進めていきたい。

A 委員：東屋の東側の斜面に実生木が生育している。そういった樹木の管理も必要になってくるのではないかと思う。

＜松尾先生＞

全体終わってからではなく、中間報告的に協議会メンバーで確認できる場があれば。

#### ・寄附による補植について

B 委員：事前相談があり、寄附についても様々な条件があるのは確認したが、島での灌水はどのようにするつもりなのか。

＜吹田市＞

寄附者は杓等でやるとのことだが、ボートを貸すことも可能。今後、方法については協議する。

A 委員：吹田市は無責任ではないのか。ボートを貸すにしても総括責任者に運転を頼むとなると指定管理者側にも責任・仕事が発生する。

＜吹田市＞

島の特性や条件などを説明し、維持管理が難しいことは寄附者にも理解いただいている。

B 委員：景観の問題なのであれば、寄附者の自宅に植樹すればいい。

＜吹田市＞

市としても、この機会にチャレンジさせてもらえたらと思っている。

B 委員：うまく生育しなかった場合でも、教訓とするだけで終わるのか。

＜吹田市＞

その通り。

B 委員：そのようなことに行政コストをかけるのか。

A 委員：植栽計画を立てている最中に、寄附・補植が決定するのは協議会の存在意義がない。

B 委員：事前に補植の説明があったのは良かったが、寄附については来るもの拒まずなのか。

＜吹田市＞

審査はある。

C 委員：せっかく寄附いただけるのであれば、補植してもらって、今後については協議しながら進めていけばいい。

A 委員：サクラは虫が寄ってきやすいので、既に島にある樹木にも影響がないとも言いきれない。

＜松尾先生＞

協議会の意義が問われる案件ではある。今後はこのようなことがないように進められたらと思う。

B 委員：これまではき違えていたが協議会とは決定機関ではなく、意見を出す場である。

＜松尾先生＞

協議会の意義がないかという訳ではなく、吹田市が正しく判断できるよう意見をいただければと思う。

#### 4. その他(苦情・要望)

【説明：グリーンホスピタルサプライ桃山公園 田中】

- ・自転車の乗り入れ
- ・春日大池のヒシの問題

【ご意見／ご質問】

＜松尾先生＞

この後、ここまでの議論について傍聴人と相談などもしていただける時間を5分ほど取ってから、遊具設置や協議会のあり方について会議を再開したいと思う。

【相談タイム：5分】

B 委員：遊具設置の経緯が不明瞭。行政・指定管理・住民の協力ありきで安全・安心・自然を守る公園の将来について検討しているのだから、もっと協議を深めたい。これまで協議会メンバーから様々な根拠資料や要望が提示されたが、結局ふたを開けてみるとすべり台しかまともに使えない。ハイジのブランコから幼児用ブランコになった経緯も大人の事情ではないか。小学生たちも楽しいアミューズメントを期待していたはずなのに、ヒコーキ遊園にあるようなものしかない。本当にそれでいいのか。場所なども検討したが、結局は結論ありきで話が進んでいたのではないかと思わざるを得ない。

＜松尾先生＞

協議の進め方については賛同する部分もある。場所については議論を尽くした認識。遊具の規模感の認識が異なっていた点においては、ご寄附であるため寄附者の予算もありこちらから希望できるものではない。PTA も大型の遊具を設置することではなく、子どもが遊べる遊具があればというご要望だったかと思う。

＜指定管理者＞

寄附者に会えるタイミングがあれば、このような協議が行われたこともお伝えする。

B 委員：なぜ指定管理者が行うのか、許可を出した市が対応するべきでは。

A 委員：現物の寄附というのは初めて聞いた。そこを理解していなかったので、受発注がグループ会社内で行われているのではないのかという話し合いを行ったが、無駄な憶測であった。

＜松尾先生＞

遊具に関しては、事前に遊具の規模や設置場所を提示して協議していたが、それでも憶測を呼んでしまうような運営になってしまっていたのかと思う。

B 委員：目線合わせを行いたい。住民と行政・指定管理がうまくかみ合っていない状態で、このまま先やっていけるのか。行政にも住民側が協力者であるということを認識してもらったうえで協議会に参加していただきたい。

＜松尾先生＞

反省して、これからの協議会運営に活かしていきたい。

A 委員：樹木調査や協議会への意見書など積極的に協力させてもらっており、今回は意見に対する回答があってよかったが、今後意見を出しても十分な協議がなされないのであれば、メンバー減少が危ぶまれる。植樹についても、景観だけで長期的な計画がないまま話が進んでいくのも危惧される。

＜吹田市＞

ブランコは3～6歳用となっているが、10歳の子が乗ってはいけないという訳ではない。

3～6歳は大人が付き添って遊んでくださいというマークである。

A 委員：3～6歳というのは賞味期限のようなもので、適正範囲を表しているのでは。

B 委員：仮に12歳の子が遊んで遊具が破損し、けがした場合はどうなるのか。

＜吹田市＞

メーカーにそのようなことはない旨、確認済み。S Pマークの意味を調べていただければと思う。

#### 5. スケジュール

【説明：グリーンホスピタルサプライ桃山公園 田中】

・イベント「空に願いを！（クリスマスバージョン）」

#### 6. 守る会からお知らせ

【説明：桃山公園を守る会 村田】

・イベント「桃山公園の自然は私たちに何を語りかけているか」

【次回開催】 2026年3月27日(金) 15:30～

今後、机上だけではなく、実際に公園を見て回って課題・問題を話し合うような機会も設けたいと考えている。

以上